

# 読書会のご案内

科学者会議宮崎支部の読書会は、学会誌「日本の科学者」に掲載された論文をテーマに、自由な意見交換の場として開かれます。どなたでもご参加できますので、是非、ご来場ください。

Chernobyl 原発事故から四半世紀が経ても、その健康被害の規模は明確にはなっていない。その原因の一つに、”国際原子力ムラ”により被害を小さく見せ、隠ぺいしようとする動きが挙げられている。このため、放射線の自然科学的知見の重要さと共に、歴史的な経過や政治的文脈などの社会科学的知見も大変重要である。

今回の読書会では、原爆投下に伴う放射能の影響に関するABCC(原爆傷害調査委員会)等の研究が現在の「国際的科学的知見」に反映されない背景等について、自由に意見を交換しませんか！

日時：2013年12月17日(火) 17:30～19:00

場所：宮崎大学工学部中会議室(工学部A棟2階、A-207)

今回のテーマ：学会誌「日本の科学者」1月号、2013年

## 冷戦下における放射線人体影響

—マンハッタン計画・米原子力委員会・ABCC

著者：高橋 博子 氏 (広島市立大学 講師、アメリカ史)

チューター：松田 達郎 氏 (宮崎大学工学部教授)

この論文をお持ちの方は、当日ご持参下さい。また、お持ちでない方は、次のJSA宮崎支部のURLからダウンロードして下さい。

[http://mjsa.saloon.jp/docs/dokusyo  
/d20131217\\_j4801.pdf](http://mjsa.saloon.jp/docs/dokusyo/d20131217_j4801.pdf)

連絡先：科学者会議宮崎支部事務局  
(木下、jsa-miyazaki@mjsa.saloon.jp)